

## 「がん対策に関する世論調査」の概要

平成27年1月  
内閣府政府広報室

調査対象 全国20歳以上の日本国籍を有する者 3,000人  
有効回収数 1,799人（回収率60.0%）  
調査時期 平成26年11月6日～11月16日（調査員による個別面接聴取）

調査目的 がん対策に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。

調査項目

- 1 がんに対する印象・認識について
- 2 がんの予防・早期発見について
- 3 がんの治療法及び病院等に関する情報源や認識について
- 4 緩和ケアについて
- 5 がん患者と社会とのつながりについて
- 6 がん登録について
- 7 がんの臨床試験について
- 8 がん対策に関する政府への要望について

調査実績 「がん対策に関する世論調査」

平成25年1月	（標本数	全国20歳以上	3,000人	有効回収数	1,883人）
平成21年9月	（標本数	全国20歳以上	3,000人	有効回収数	1,935人）
平成19年9月	（標本数	全国20歳以上	3,000人	有効回収数	1,767人）

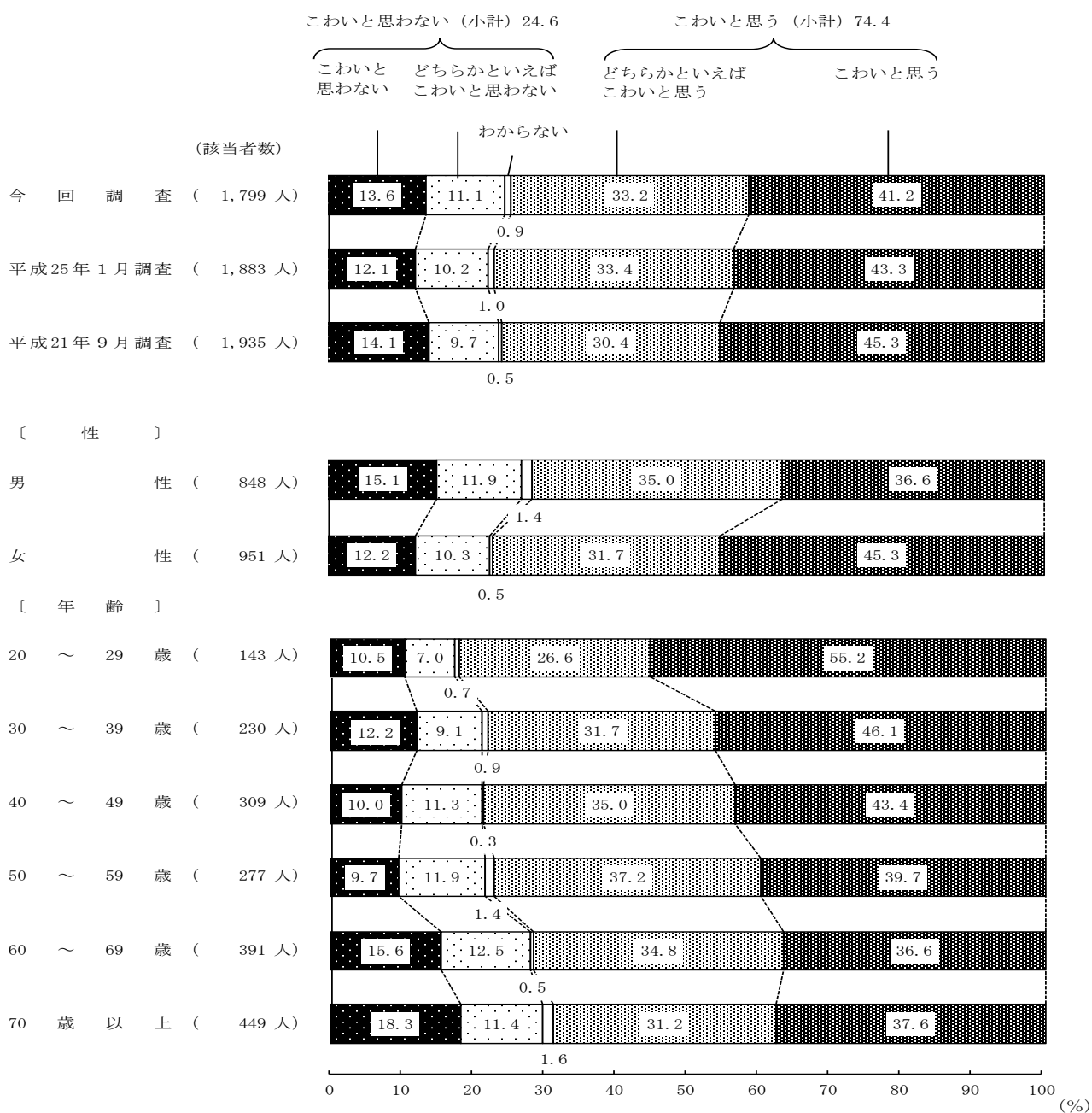
※ 本資料では、過去の調査結果との比較において、統計学的に有意差（信頼度95%）が認められる回答については、「（増）」または「（減）」と記載している。

# 1 がんに対する印象・認識について

## (1) がんに対する印象

問1 あなたは、がんについてどのような印象を持っていますか。この中から1つだけお答えください。

	平成 25 年 1 月	→	平成 26 年 11 月
・こわいと思わない (小計)	22.4%		24.6%
・こわいと思わない	12.1%		13.6%
・どちらかといえばこわいと思わない	10.2%		11.1%
・こわいと思う (小計)	76.7%		74.4%
・どちらかといえばこわいと思う	33.4%		33.2%
・こわいと思う	43.3%		41.2%

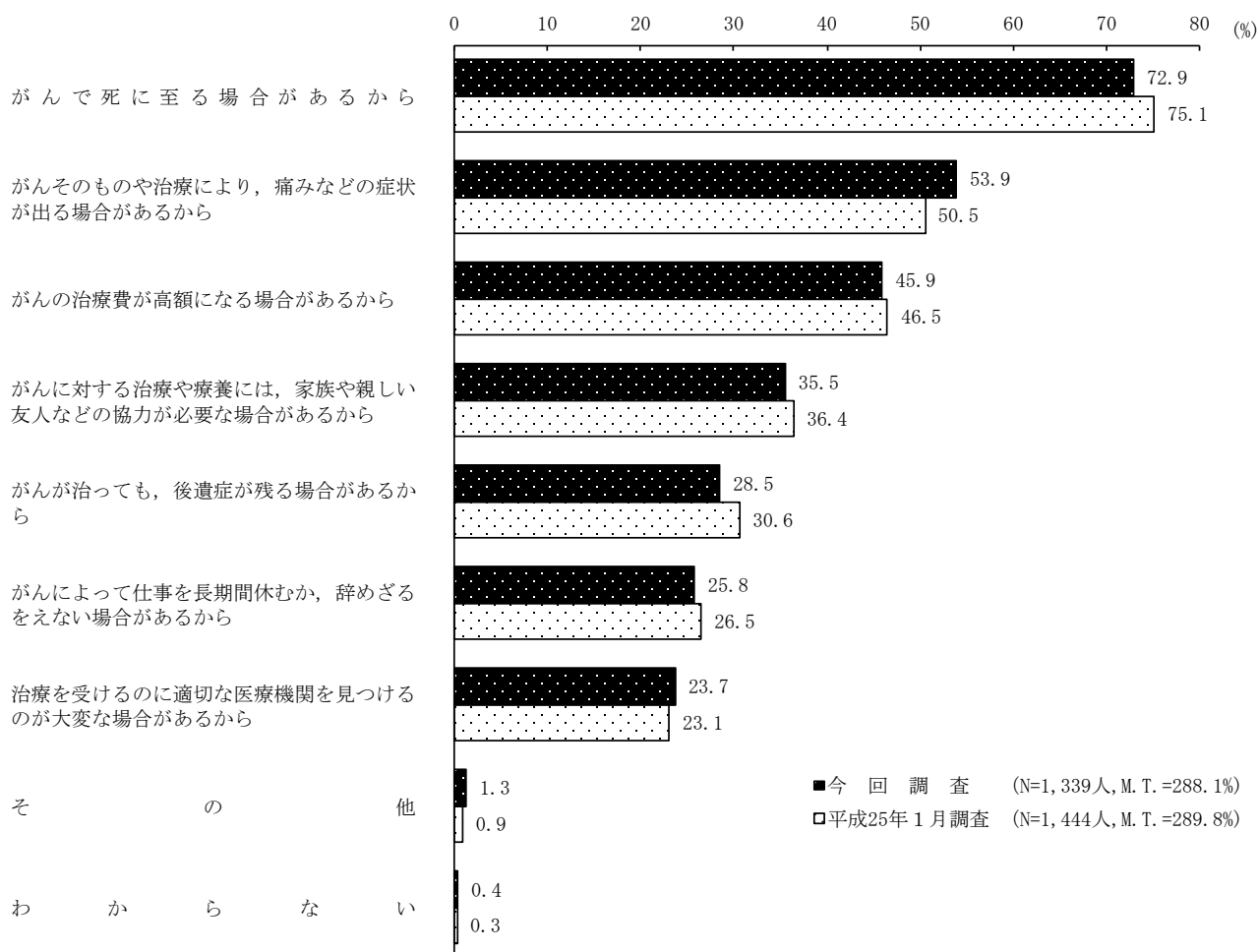


## ア がんをこわいと思う理由の認識

更問 (問1で「どちらかといえばこわいと思う」、「こわいと思う」と答えた方(1,339人)に) あなたが、がんをこわいと思う理由を、この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

	(上位4項目)	
	平成25年1月	平成26年11月
・がんで死に至る場合があるから	75.1%	→ 72.9%
・がんそのものや治療により、痛みなどの症状が出る場合があるから	50.5%	→ 53.9%
・がんの治療費が高額になる場合があるから	46.5%	→ 45.9%
・がんに対する治療や療養には、家族や親しい友人などの協力が必要な場合があるから	36.4%	→ 35.5%

(がんに対する印象について、「どちらかといえばこわいと思う」、「こわいと思う」と答えた者に、複数回答)



(2) がんに対する知識の認識

問2 がんについてあなたが知っていることを、この中からいくつでもあげてください。

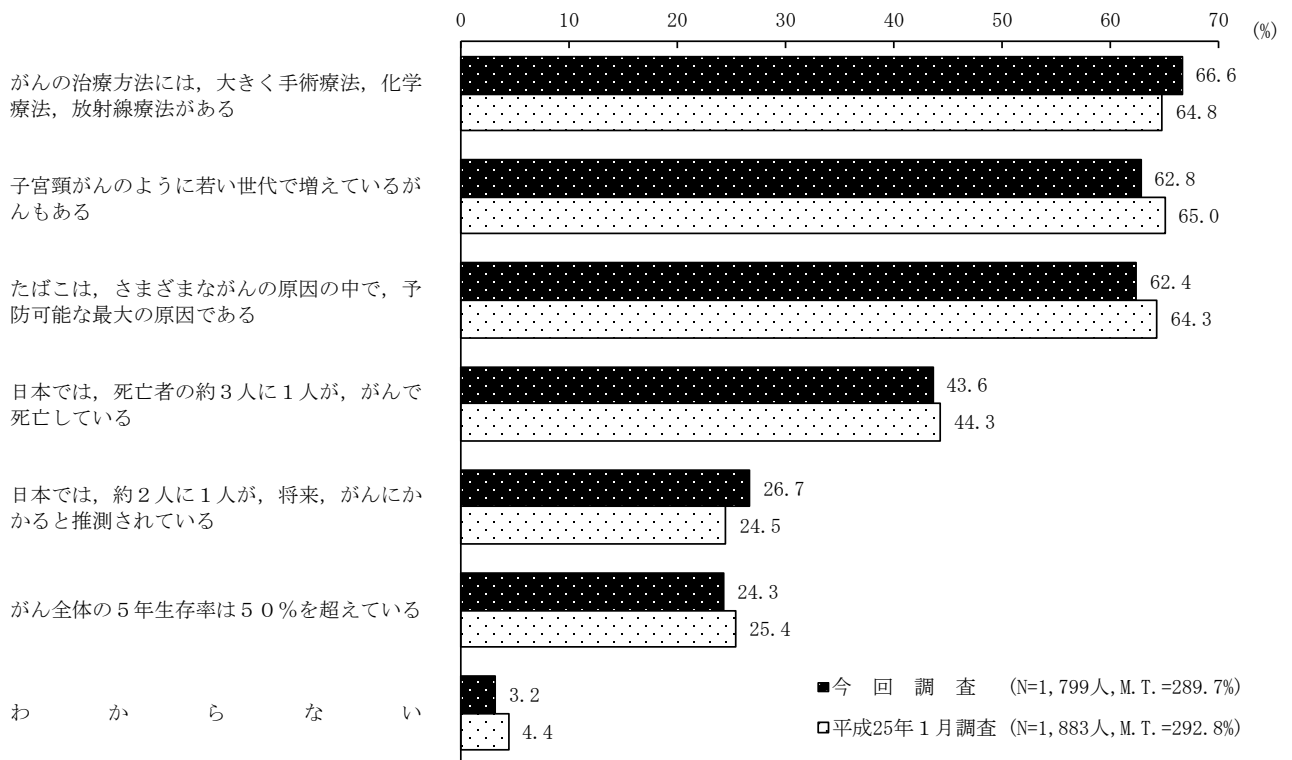
(複数回答)

(上位4項目)

平成25年1月 平成26年11月

・がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある	64.8%	→	66.6%
・子宮頸がんのように若い世代で増えているがんもある	65.0%	→	62.8%
・たばこは、さまざまながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である	64.3%	→	62.4%
・日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している	44.3%	→	43.6%

(複数回答)

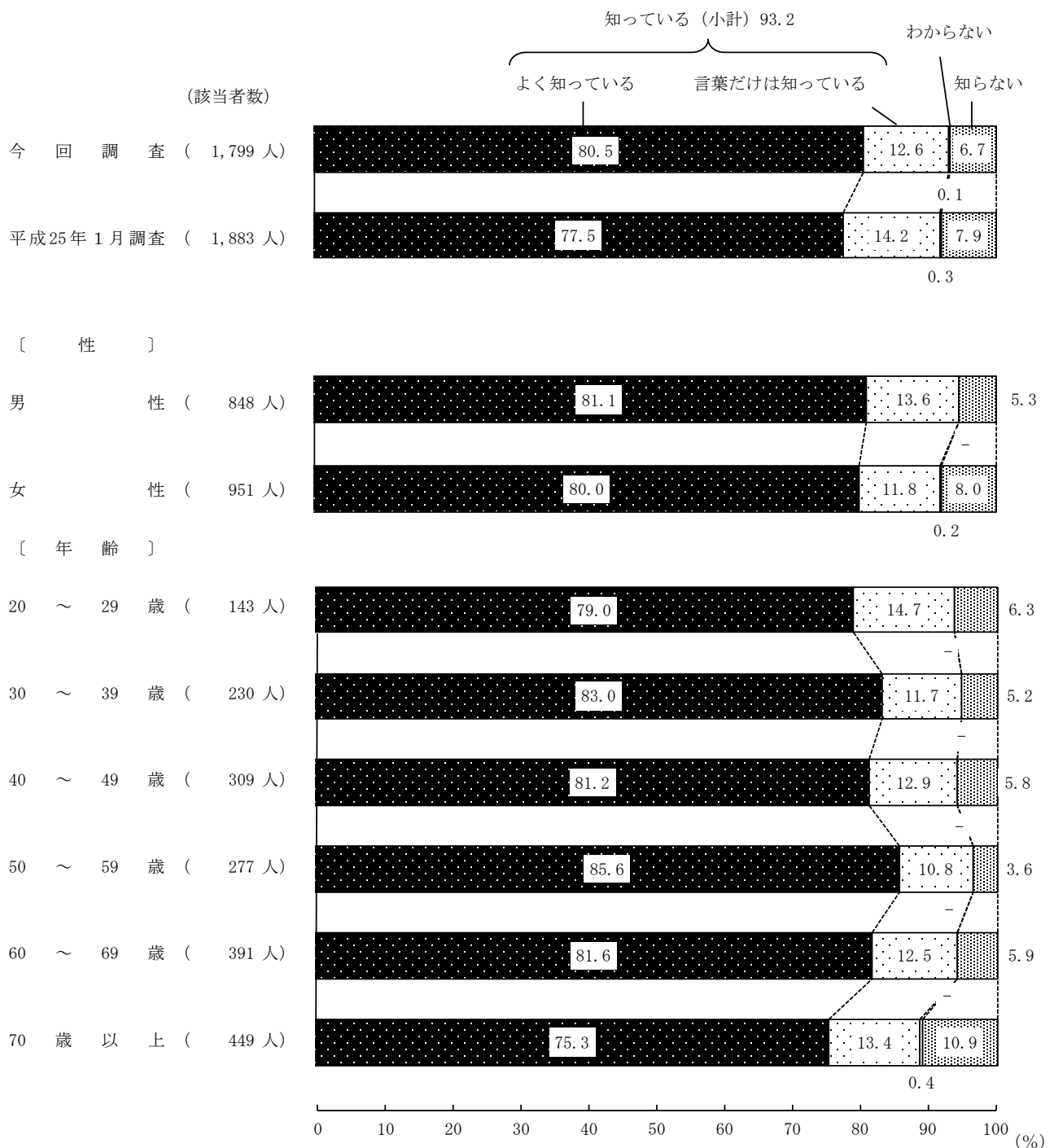


## 2 がんの予防・早期発見について

### (1) 受動喫煙の認知度

問3 あなたは、受動喫煙について知っていましたか。この中から1つだけお答えください。

	平成 25 年 1 月	→	平成 26 年 11 月
・知っている (小計)	91.8%		93.2%
・よく知っている	77.5%		80.5% (増)
・言葉だけは知っている	14.2%		12.6%
・知らない	7.9%		6.7%

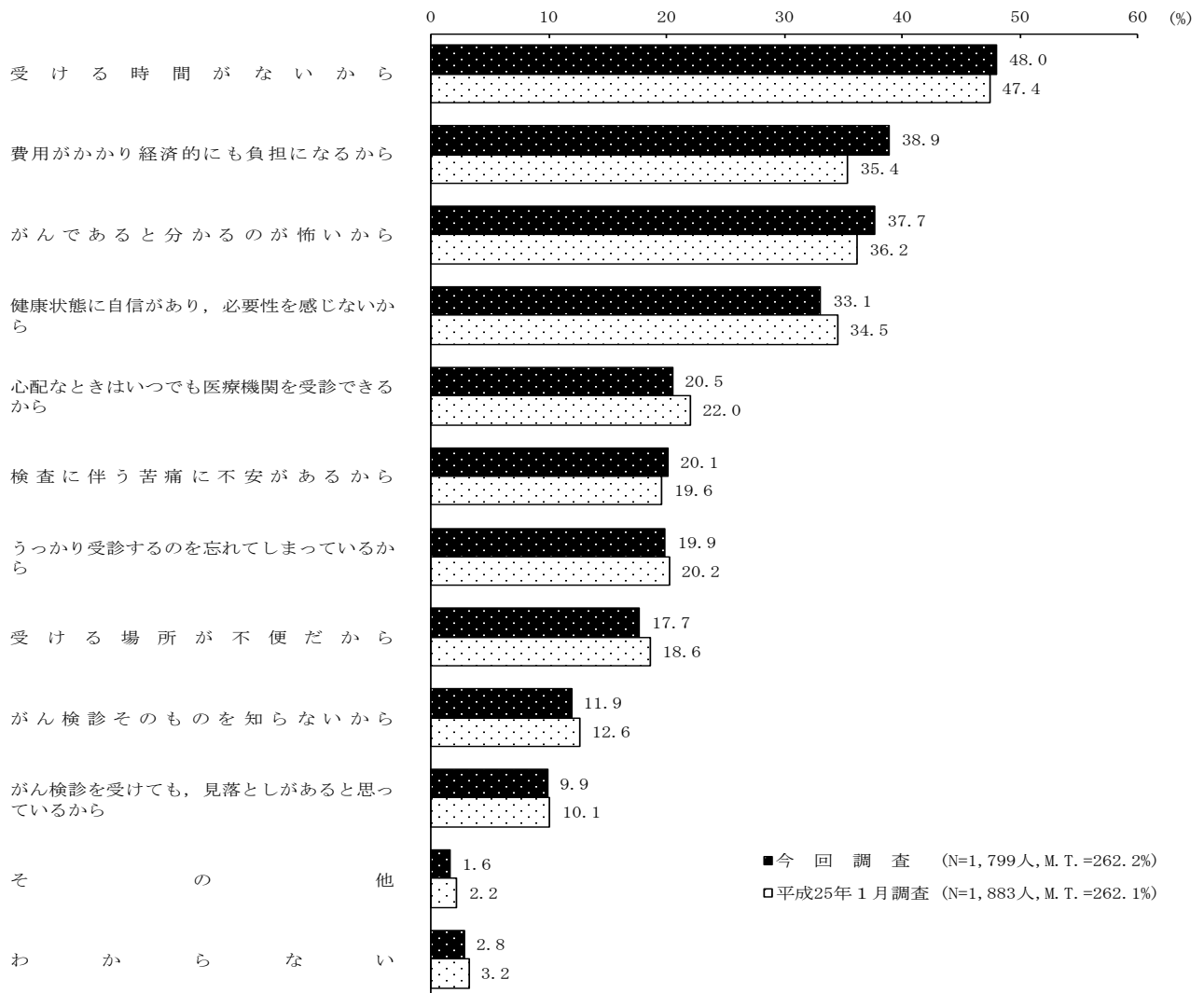


(2) がん検診を受けない理由の認識

問4 日本のがん検診の受診率は、40%程度と上昇傾向にあります。欧米諸国と比較すると依然として低く留まっています。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。この中からあてはまるものをいくつでもあげてください。(複数回答)

	(上位4項目)	
	平成25年1月	平成26年11月
・受ける時間がないから	47.4%	→ 48.0%
・費用がかかり経済的にも負担になるから	35.4%	→ 38.9% (増)
・がんであると分かるのが怖いから	36.2%	→ 37.7%
・健康状態に自信があり、必要性を感じないから	34.5%	→ 33.1%

(複数回答)



(注) 平成25年1月調査では、「日本のがん検診の受診率は、20-30%程度と低く留まっています。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。この中からあてはまるものをいくつでもあげてください。」と聞いている。

### 3 がんの治療法及び病院等に関する情報源や認識について

#### (1) がんの治療法や病院についての情報源

問5 あなたは、がんと診断されたら、ご自身のがんの治療法や病院について、どこで情報を入手しようと思いますか。この中からあてはまるものをいくつでもあげてください。

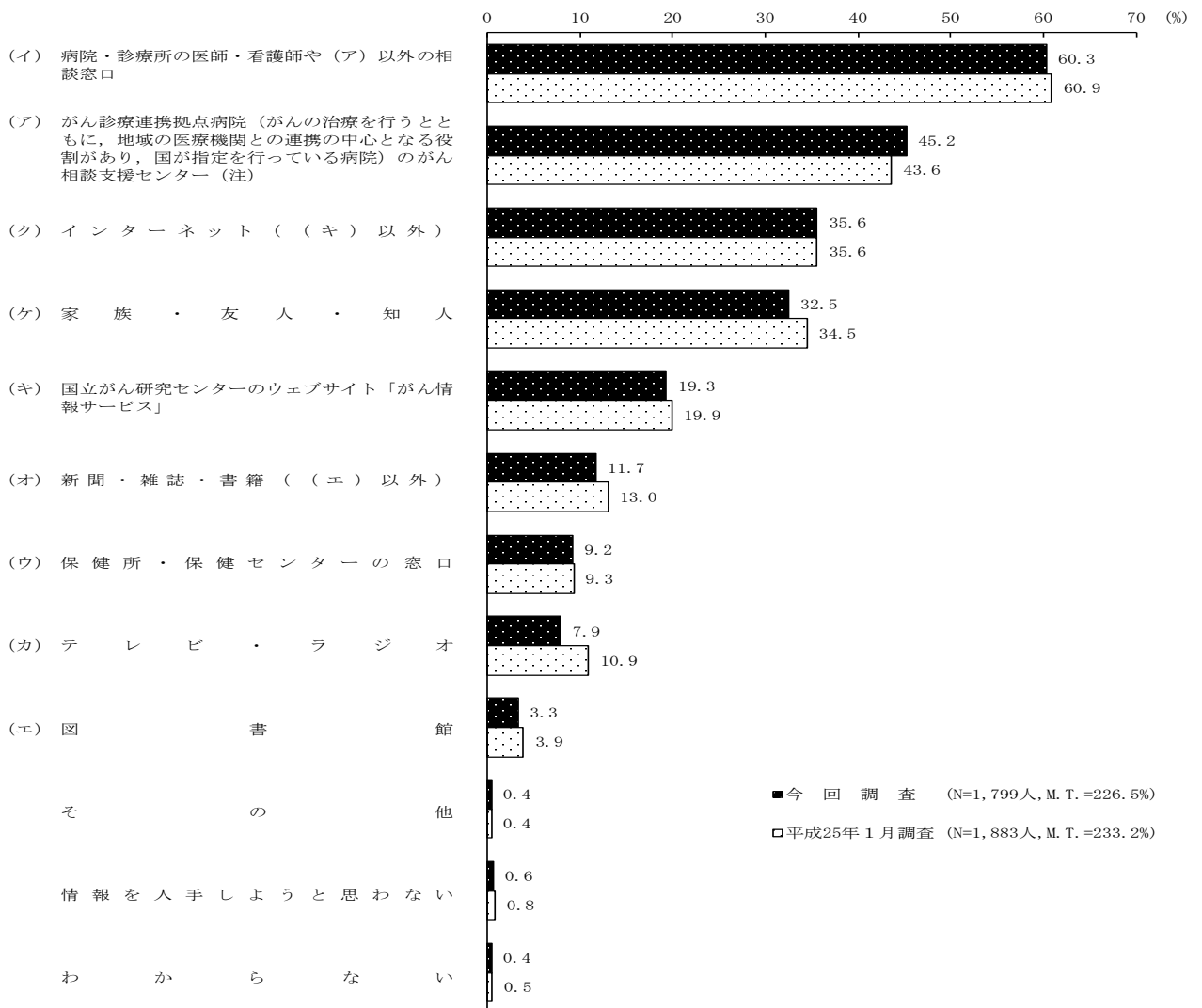
(複数回答)

(上位4項目)

平成25年1月 平成26年11月

・(イ) 病院・診療所の医師・看護師や(ア)以外の相談窓口	60.9%	→	60.3%
・(ア) がん診療連携拠点病院(がんの治療を行うとともに、地域の医療機関との連携の中心となる役割があり、国が指定を行っている病院)のがん相談支援センター	43.6%	→	45.2%
・(ク) インターネット((キ)以外)	35.6%	→	35.6%
・(ケ) 家族・友人・知人	34.5%	→	32.5%

(複数回答)

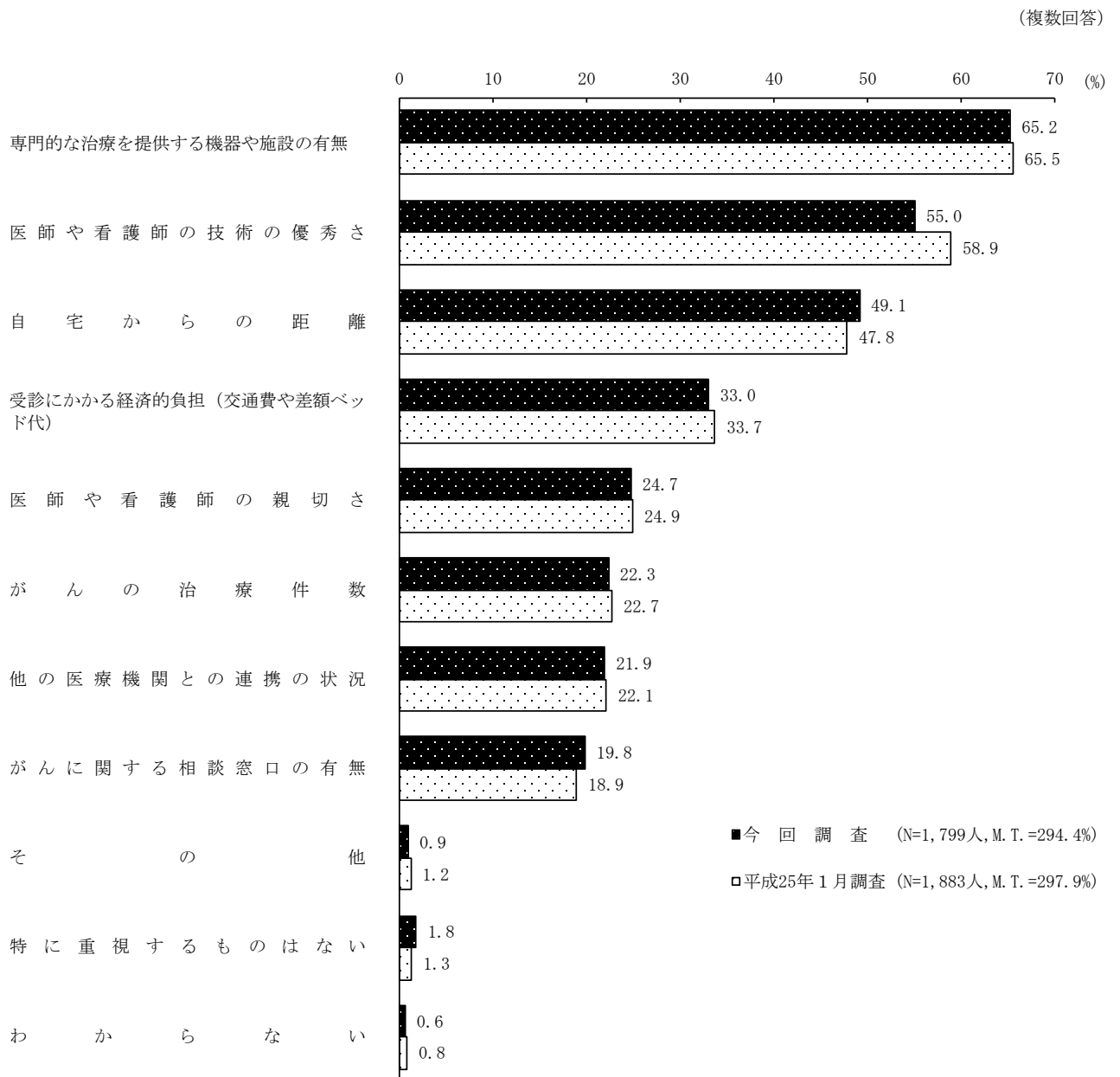


(注) 平成25年1月調査では、「がん診療連携拠点病院(がんの治療を行うとともに、地域の医療機関との連携の中心となる役割があり、国が指定を行っている病院)の相談支援センター」となっている。

(2) 病院を選ぶにあたり重視すること

問6 あなたは、がんと診断されたら、治療を受ける病院を選ぶにあたり重視するのはどれですか。この中からあてはまるものをいくつでもあげてください。(複数回答)

	(上位4項目)	
	平成25年1月	平成26年11月
・専門的な治療を提供する機器や施設の有無	65.5%	→ 65.2%
・医師や看護師の技術の優秀さ	58.9%	→ 55.0% (減)
・自宅からの距離	47.8%	→ 49.1%
・受診にかかる経済的負担(交通費や差額ベッド代)	33.7%	→ 33.0%



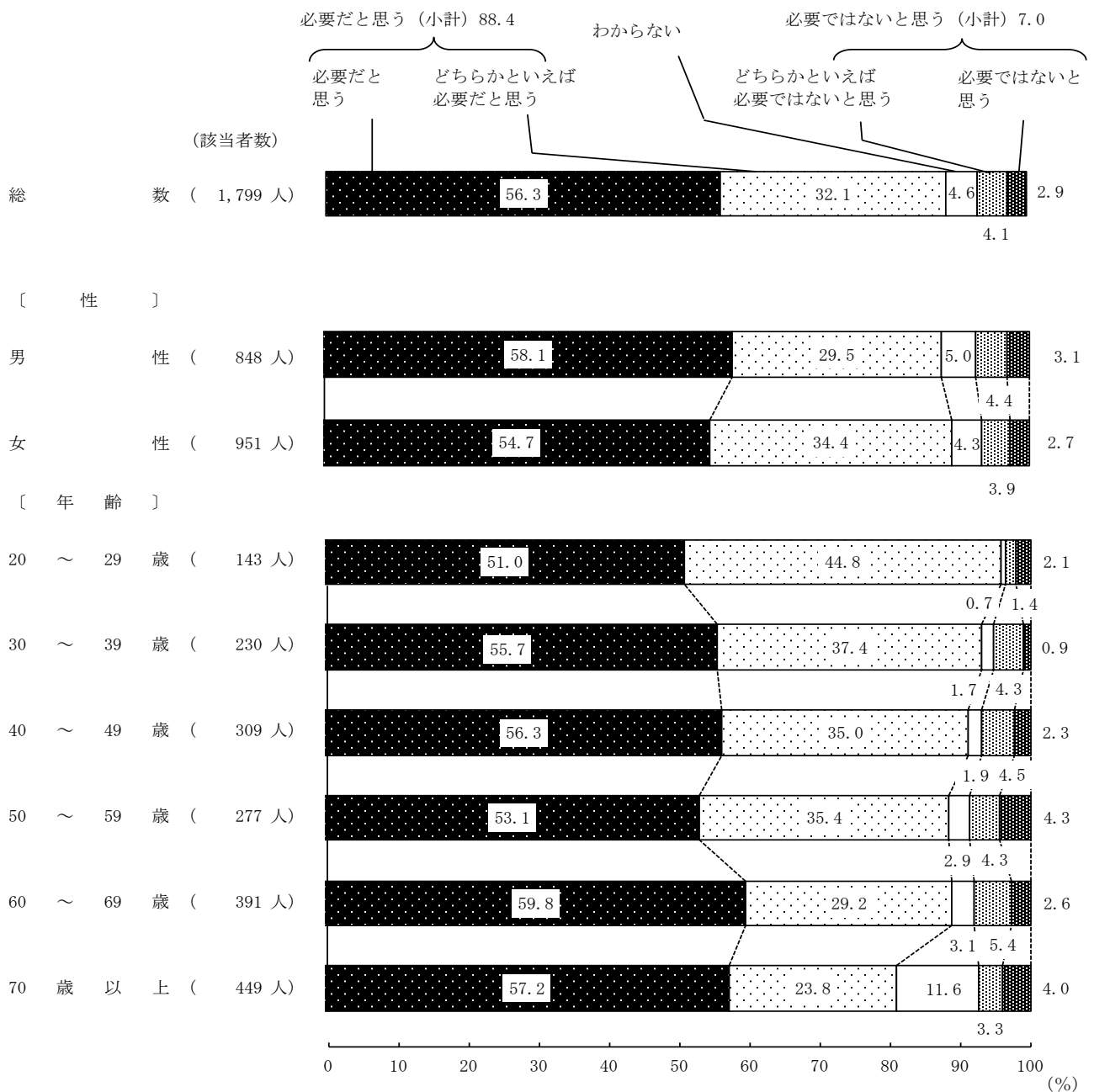


(4) 希少がん医療の集約化に対する意識

問7 希少がんの診療においては、専門的な病院を指定して、患者さんを集める仕組みが必要だと思いますか。この中から1つだけお答えください。

平成 26 年 11 月

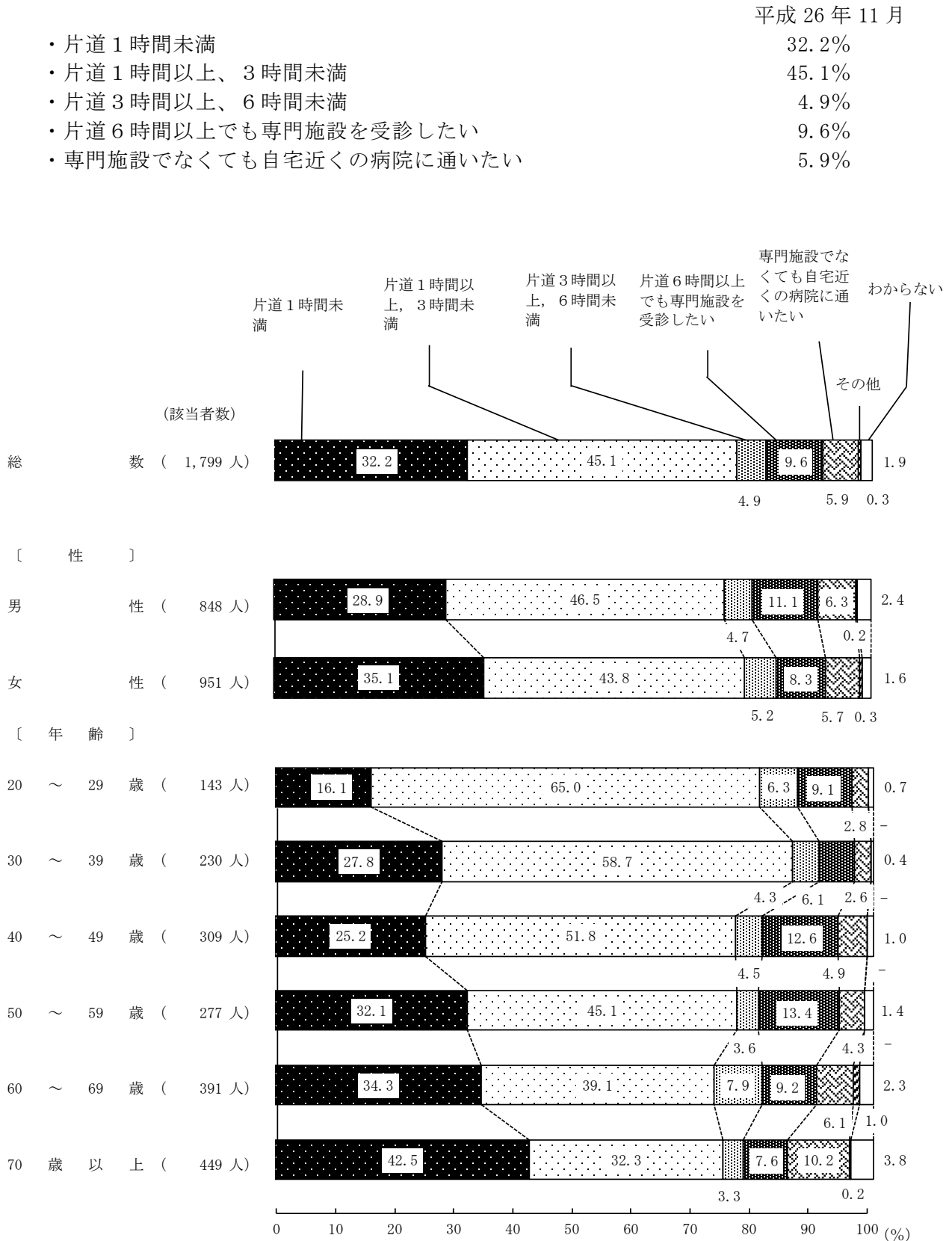
- ・必要だと思う (小計) 88.4%
- ・必要だと思う 56.3%
- ・どちらかといえば必要だと思う 32.1%
- ・必要ではないと思う (小計) 7.0%
- ・どちらかといえば必要ではないと思う 4.1%
- ・必要ではないと思う 2.9%



(5) 希少がん診療施設までの通院時間

問8 もし、あなたが希少がんと診断され、自宅から離れた場所にしか専門的な病院がない、と医師から伝えられたとします。あなたは、その病院へ行くための時間が最大でどのくらいまでなら、その病院を受診しようと思いませんか。この中から1つだけお答えください。

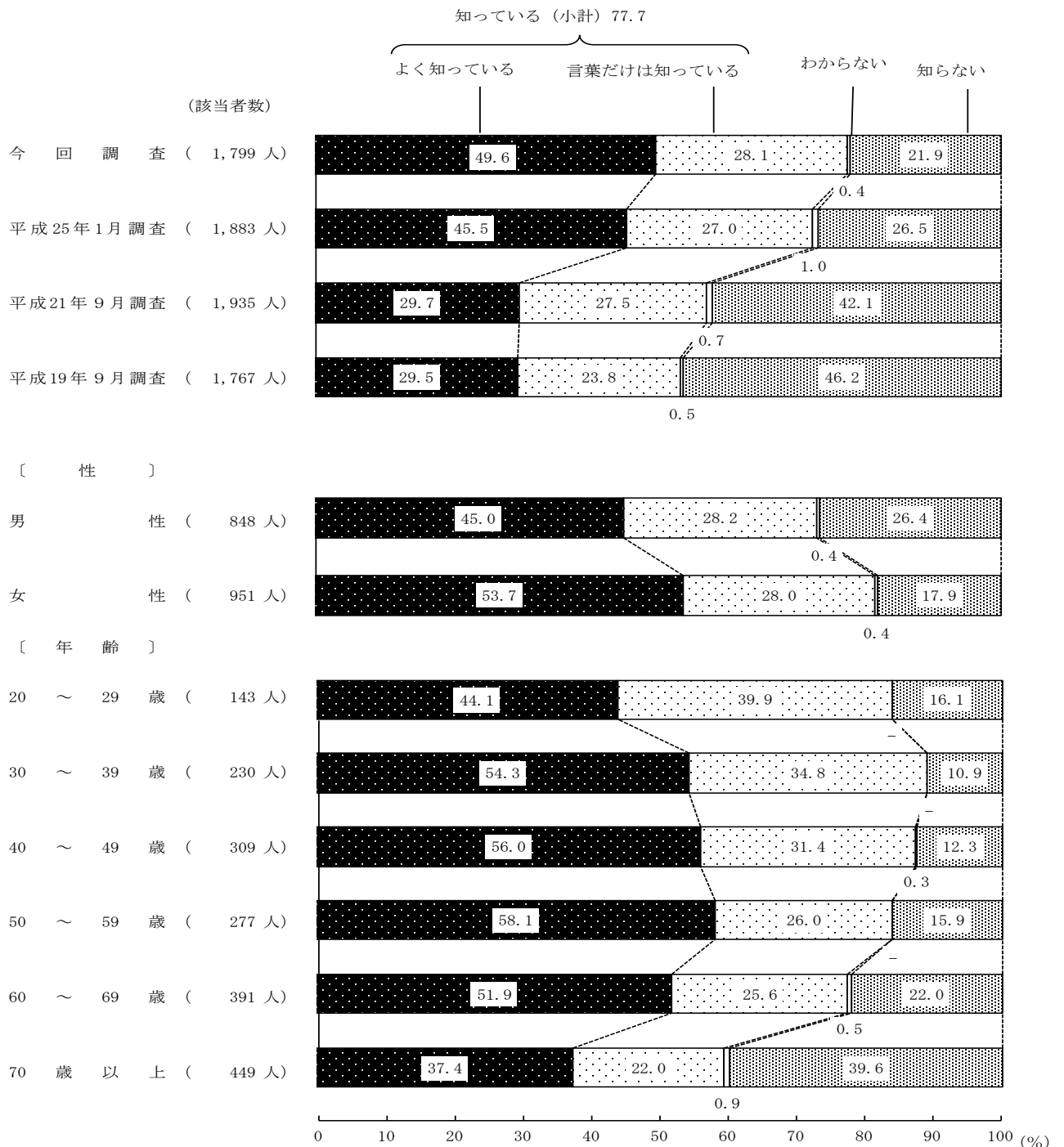
- ・片道1時間未満 32.2%
- ・片道1時間以上、3時間未満 45.1%
- ・片道3時間以上、6時間未満 4.9%
- ・片道6時間以上でも専門施設を受診したい 9.6%
- ・専門施設でなくても自宅近くの病院に通いたい 5.9%



(6) セカンドオピニオンの認知度

問9 治療法の決定をする際などに、主治医以外の医師の意見を聞く方法を「セカンドオピニオン」といいますが、あなたは、がん治療にあたって「セカンドオピニオン」という方法があることを知っていましたか。この中から1つだけお答えください。

	平成 25 年 1 月	平成 26 年 11 月
・知っている (小計)	72.5%	→ 77.7% (増)
・よく知っている	45.5%	→ 49.6% (増)
・言葉だけは知っている	27.0%	→ 28.1%
・知らない (小計)	26.5%	→ 21.9% (減)

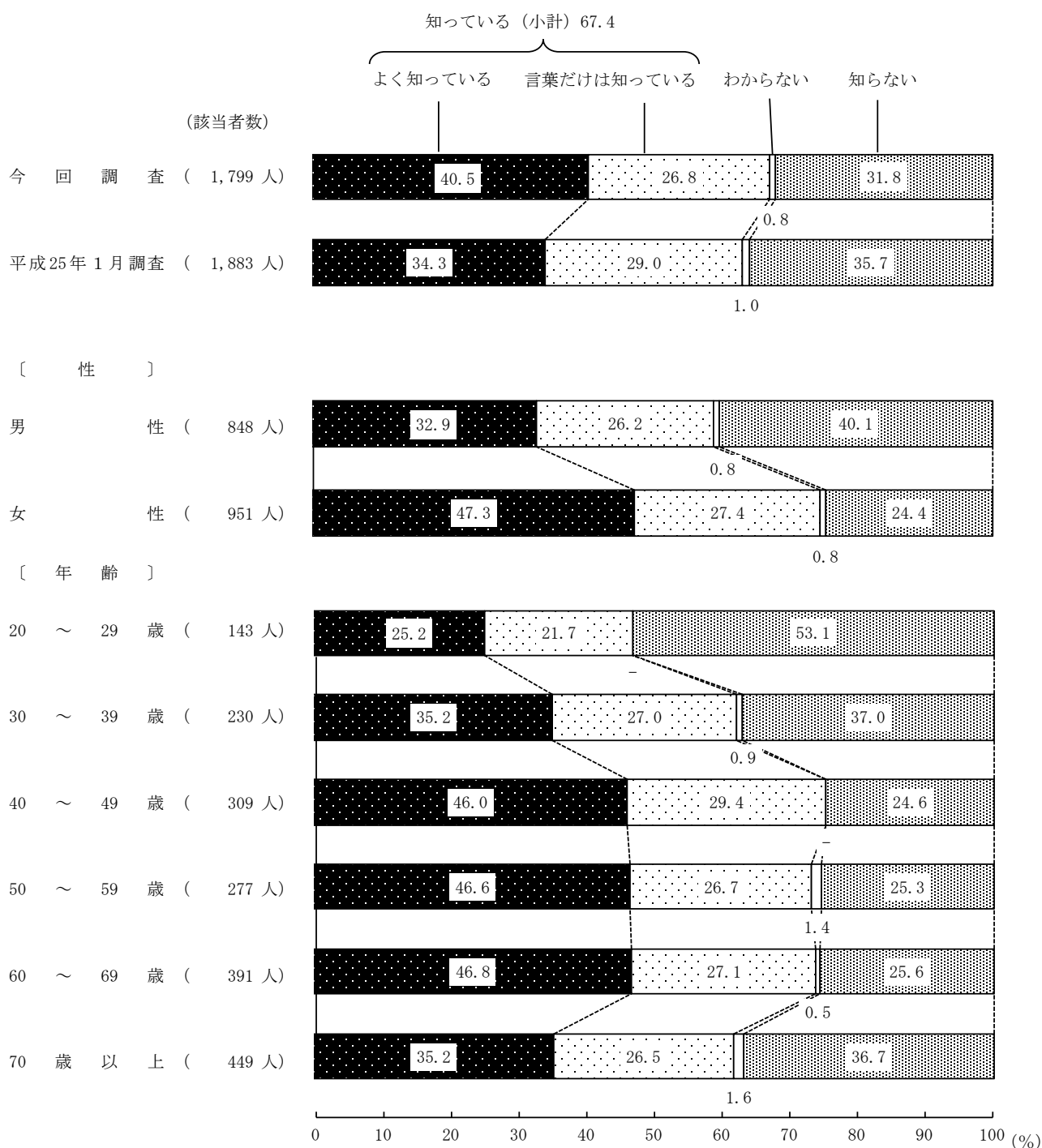


## 4 緩和ケアについて

### (1) 緩和ケアの認知度

問10 がん医療における緩和ケアとは、がんに伴う体と心の痛みを和らげることですが、あなたは、がん医療における緩和ケアについて知っていましたか。この中から1つだけお答えください。

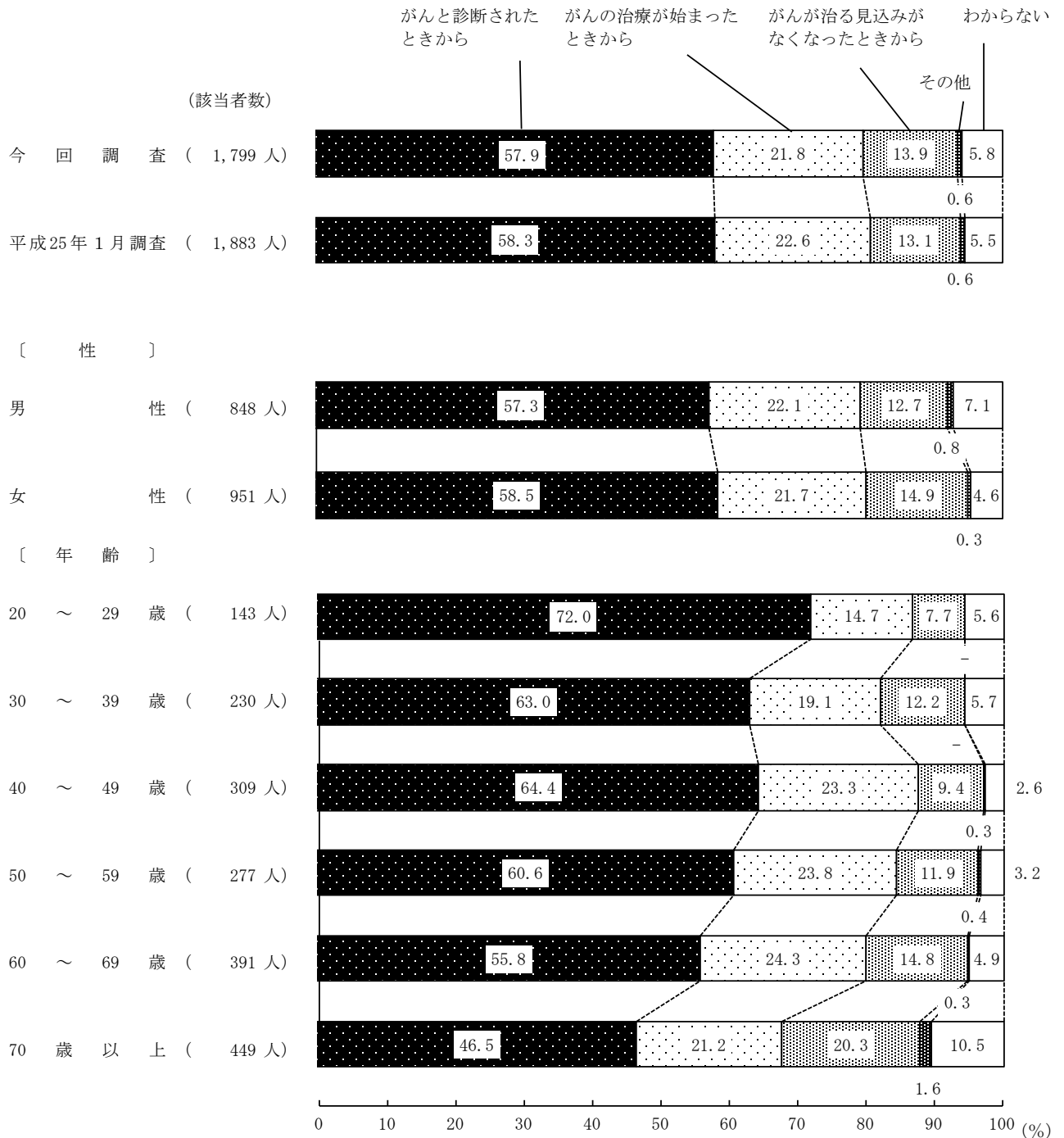
	平成 25 年 1 月	平成 26 年 11 月
・知っている (小計)	63.3%	→ 67.4% (増)
・よく知っている	34.3%	→ 40.5% (増)
・言葉だけは知っている	29.0%	→ 26.8%
・知らない	35.7%	→ 31.8% (減)



(2) 緩和ケアを開始すべき時期の認識

問11 あなたは、がんに対する緩和ケアはいつから実施されるべきものと思っていますか。この中から1つだけお答えください。

	平成 25 年 1 月	→	平成 26 年 11 月
・がんと診断されたときから	58.3%		57.9%
・がんの治療が始まったときから	22.6%		21.8%
・がんが治る見込みがなくなったときから	13.1%		13.9%



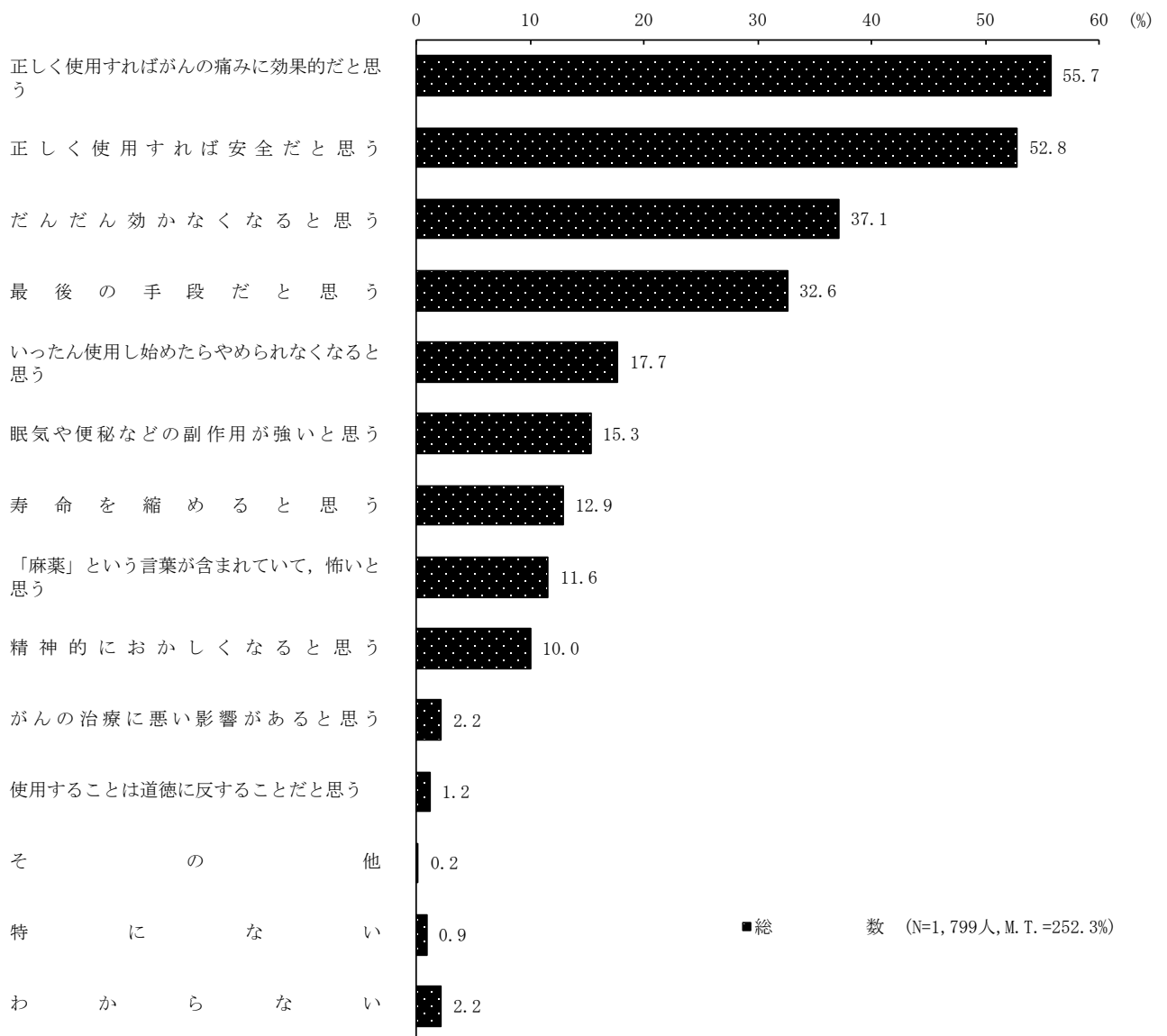
(3) 医療用麻薬に対する意識

問12 あなたは、医療用麻薬についてどのような印象を持っていますか。この中からあてはまるものをいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)  
平成26年11月

- ・正しく使用すればがんの痛みに効果的だと思う 55.7%
- ・正しく使用すれば安全だと思う 52.8%
- ・だんだん効かなくなると思う 37.1%
- ・最後の手段だと思う 32.6%

(複数回答)

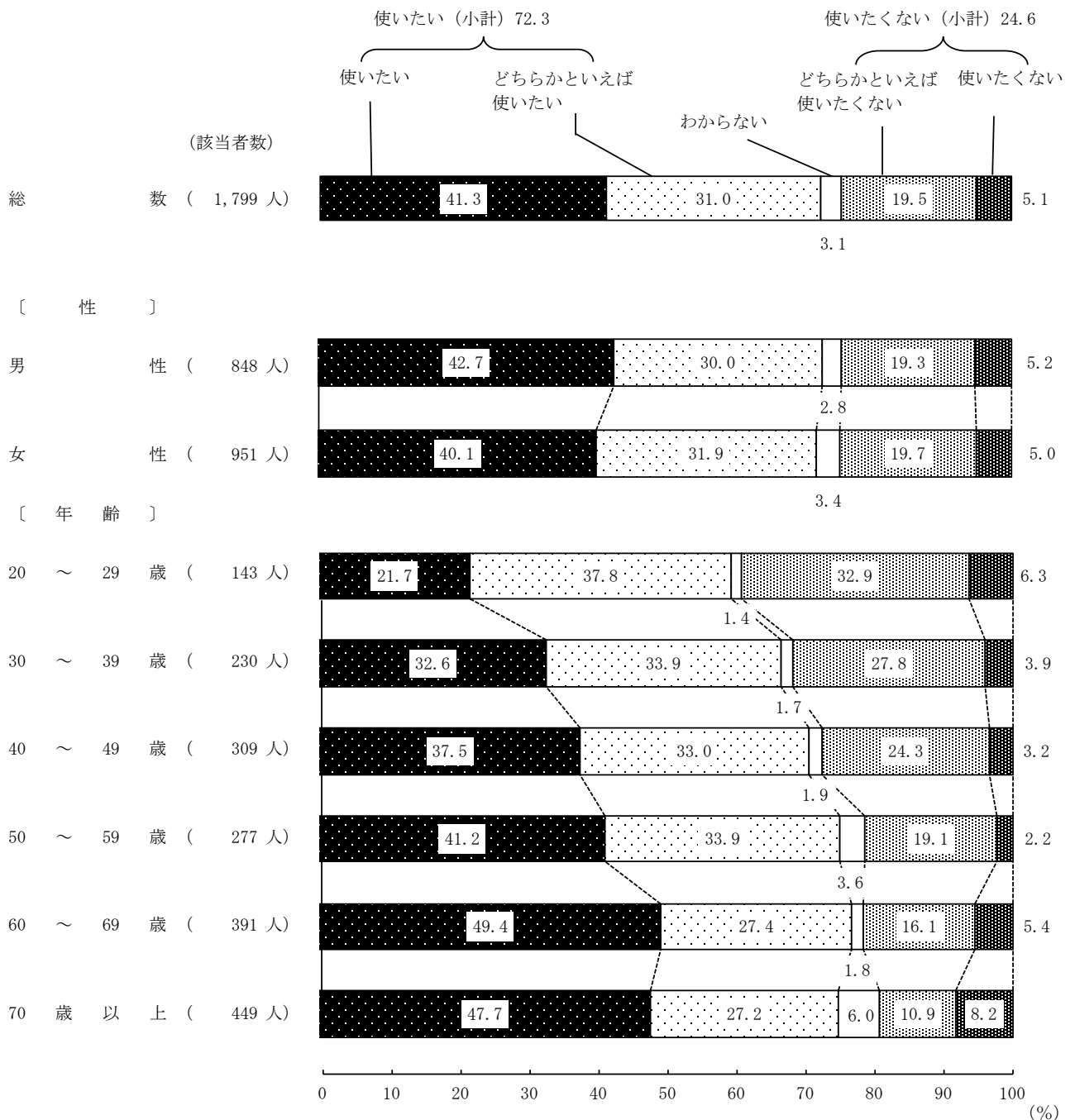


(4) 医療用麻薬の使用に対する意識

問13 もし、がんのために痛みが生じ、医師から医療用麻薬の使用を提案された場合、あなたは医療用麻薬を使用したいと思いますか。この中から1つだけお答えください。

平成 26 年 11 月

- ・使いたい (小計) 72.3%
- ・使いたい 41.3%
- ・どちらかといえば使いたい 31.0%
- ・使いたくない (小計) 24.6%
- ・どちらかといえば使いたくない 19.5%
- ・使いたくない 5.1%

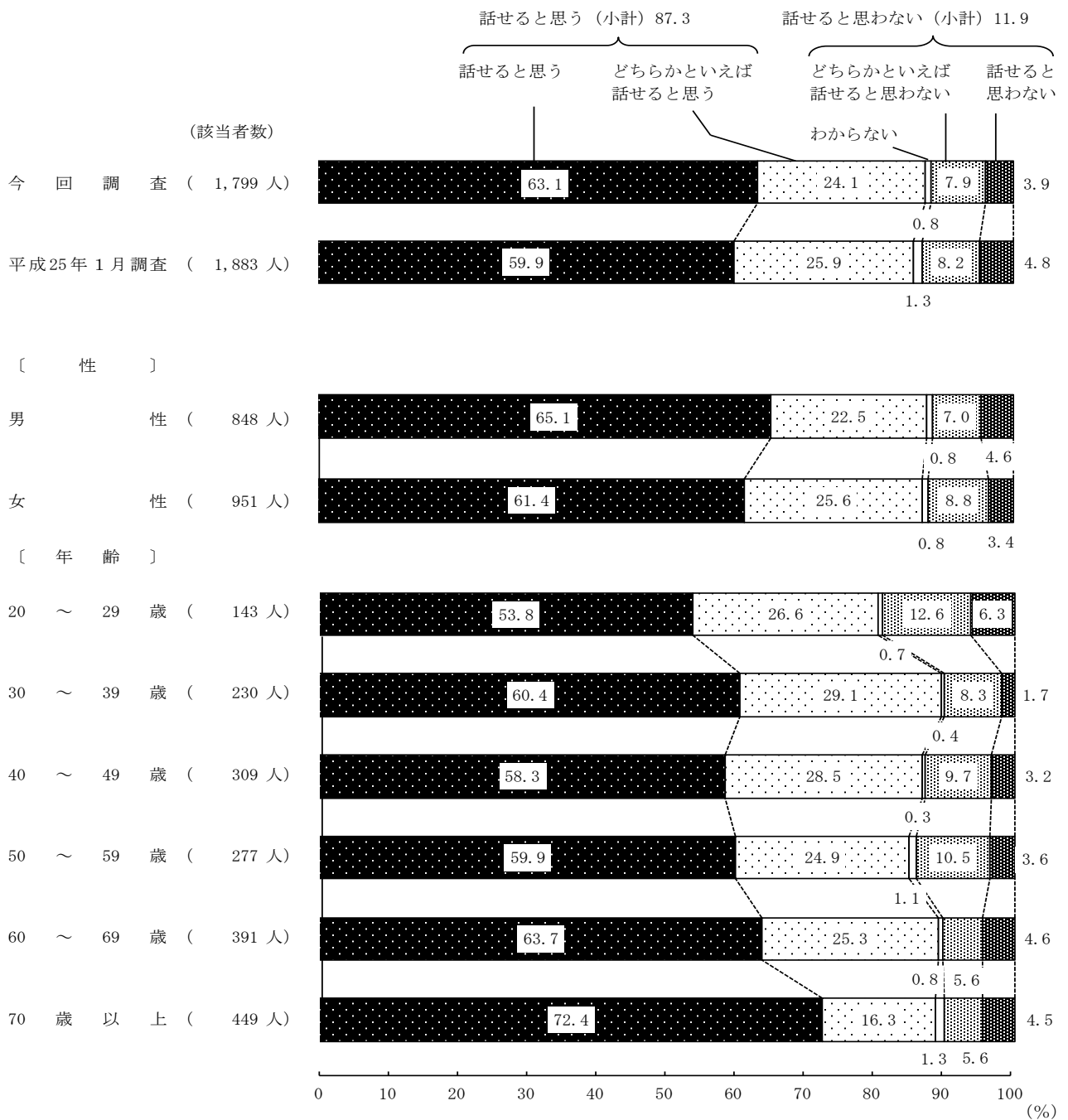


## 5 がん患者と社会とのつながりについて

### (1) がんであることを伝えることの認識

問14 あなたご自身が、がんと診断されたら、家族や友人などだれか身近な人にがんのことを自由に話せると思いますか。この中から1つだけお答えください。

	平成 25 年 1 月	平成 26 年 11 月
・話せると思う (小計)	85.7%	→ 87.3%
・話せると思う	59.9%	→ 63.1% (増)
・どちらかといえば話せると思う	25.9%	→ 24.1%
・話せると思わない (小計)	13.0%	→ 11.9%
・どちらかといえば話せると思わない	8.2%	→ 7.9%
・話せると思わない	4.8%	→ 3.9%

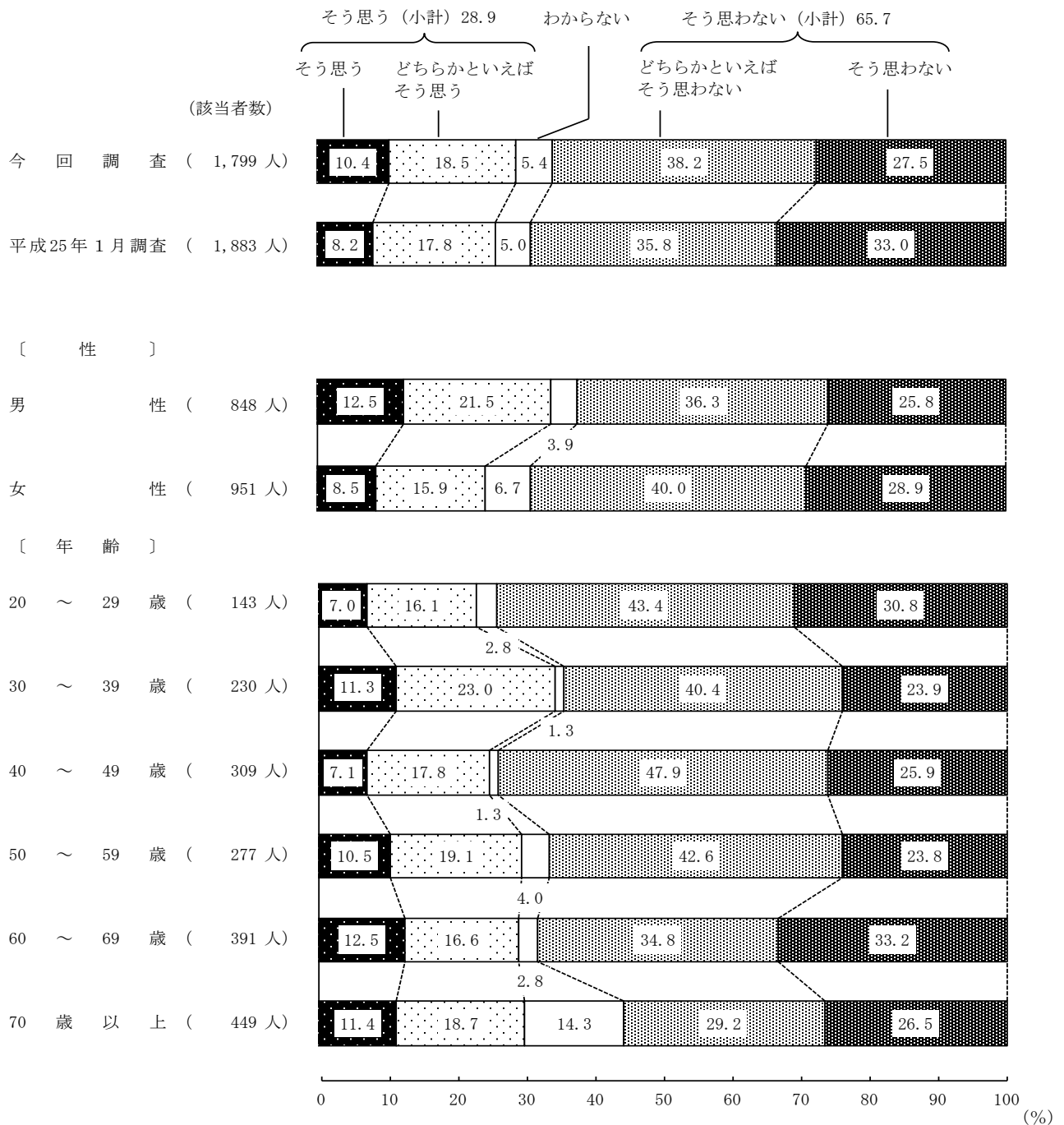




(2) 仕事と治療等の両立についての認識

問15 現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働きつづけられる環境だと思いますか。この中から1つだけお答えください。

	平成 25 年 1 月	平成 26 年 11 月
・そう思う (小計)	26.1%	→ 28.9%
・そう思う	8.2%	→ 10.4% (増)
・どちらかといえばそう思う	17.8%	→ 18.5%
・そう思わない (小計)	68.9%	→ 65.7% (減)
・どちらかといえばそう思わない	35.8%	→ 38.2%
・そう思わない	33.0%	→ 27.5% (減)

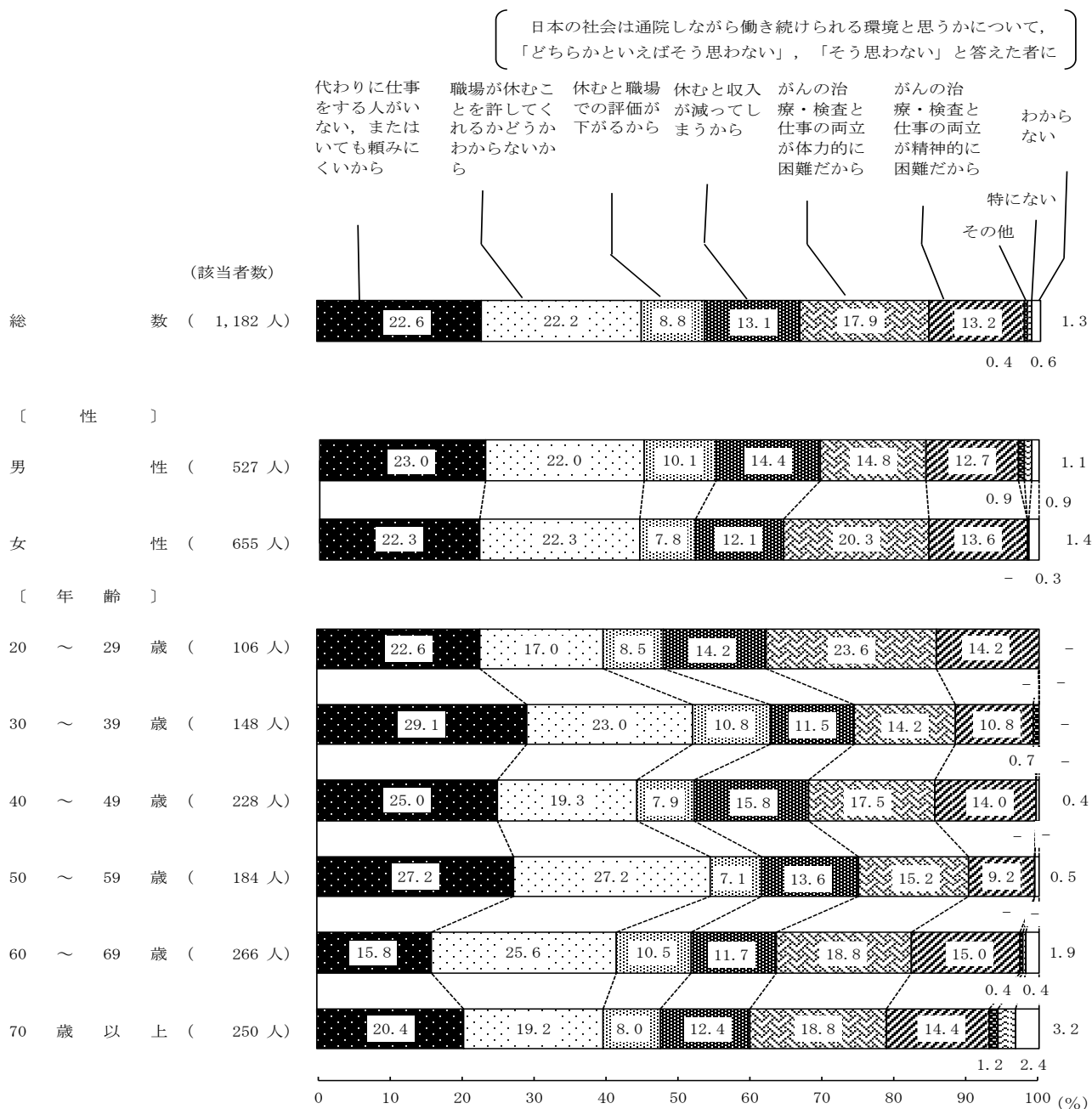


ア 両立を困難にする最大の要因

更問 (問 15 で「どちらかといえばそう思わない」, 「そう思わない」と答えた方 (1,182 人) に) がんの治療や検査のために 2 週間に一度程度病院に通う必要がある場合, 働き続けることを難しくさせている最も大きな理由は何だと思いますか。この中から 1 つだけお答えください。

平成 26 年 11 月

- ・代わりに仕事をする人がいない, またはいても頼みにくいから 22.6%
- ・職場が休むことを許してくれるかどうかわからないから 22.2%
- ・休むと職場での評価が下がるから 8.8%
- ・休むと収入が減ってしまうから 13.1%
- ・がんの治療・検査と仕事の両立が体力的に困難だから 17.9%
- ・がんの治療・検査と仕事の両立が精神的に困難だから 13.2%

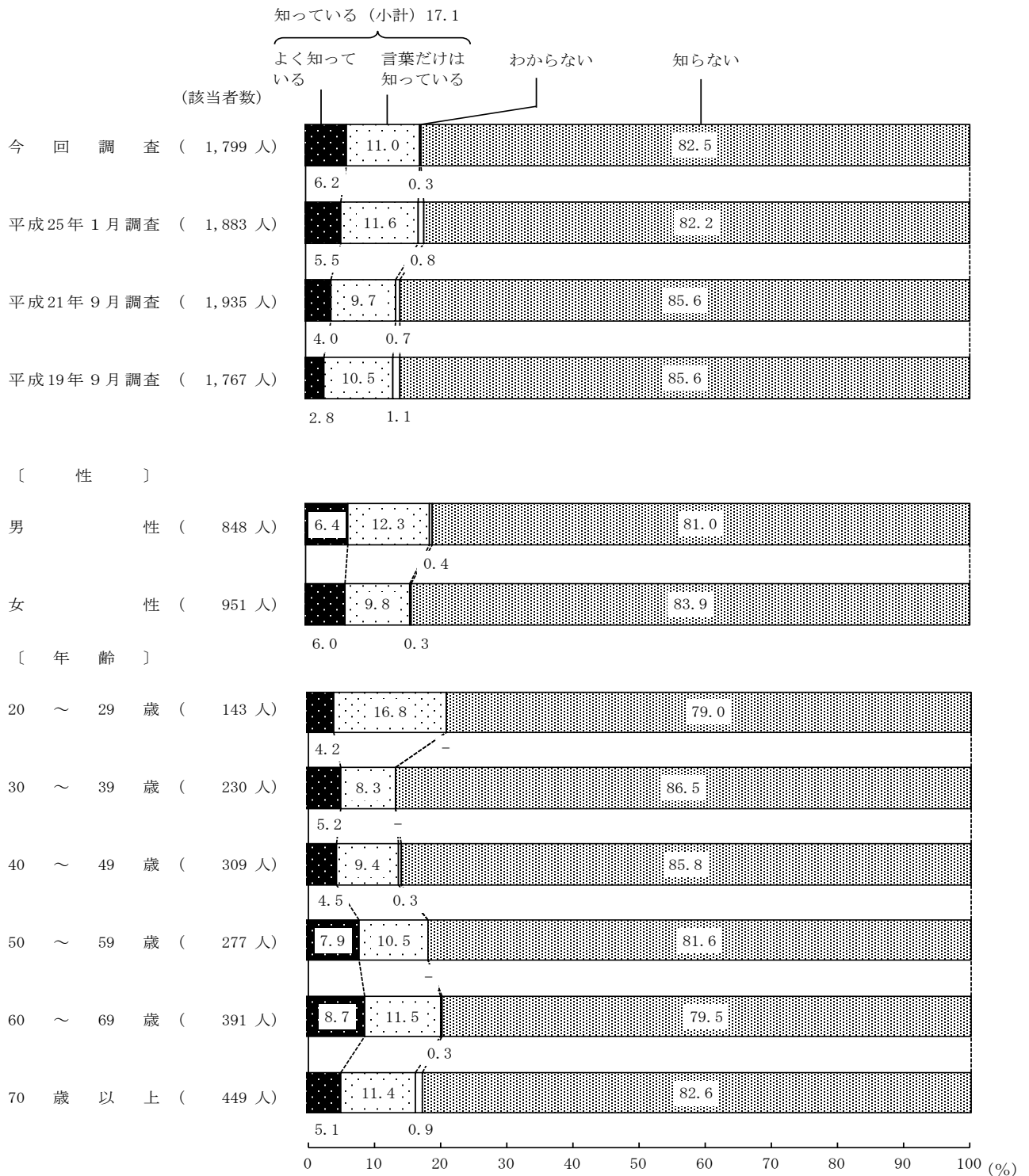


## 6 がん登録について

### (1) がん登録の認知度

問16 あなたは、がん登録について知っていましたか。この中から1つだけお答えください。

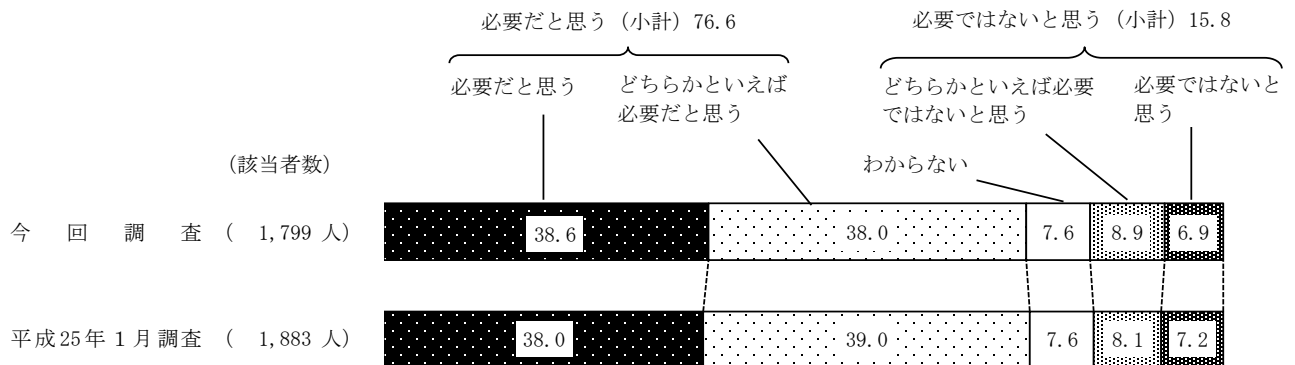
	平成 25 年 1 月	平成 26 年 11 月
・知っている (小計)	17.0%	→ 17.1%
・よく知っている	5.5%	→ 6.2%
・言葉だけは知っている	11.6%	→ 11.0%
・知らない (小計)	82.2%	→ 82.5%



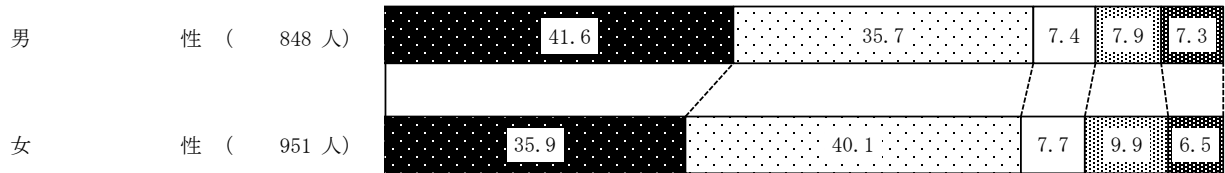
(2) がん登録の必要性

問17 あなたは、がん登録のことを必要だと思いますか。この中から1つだけお答えください。

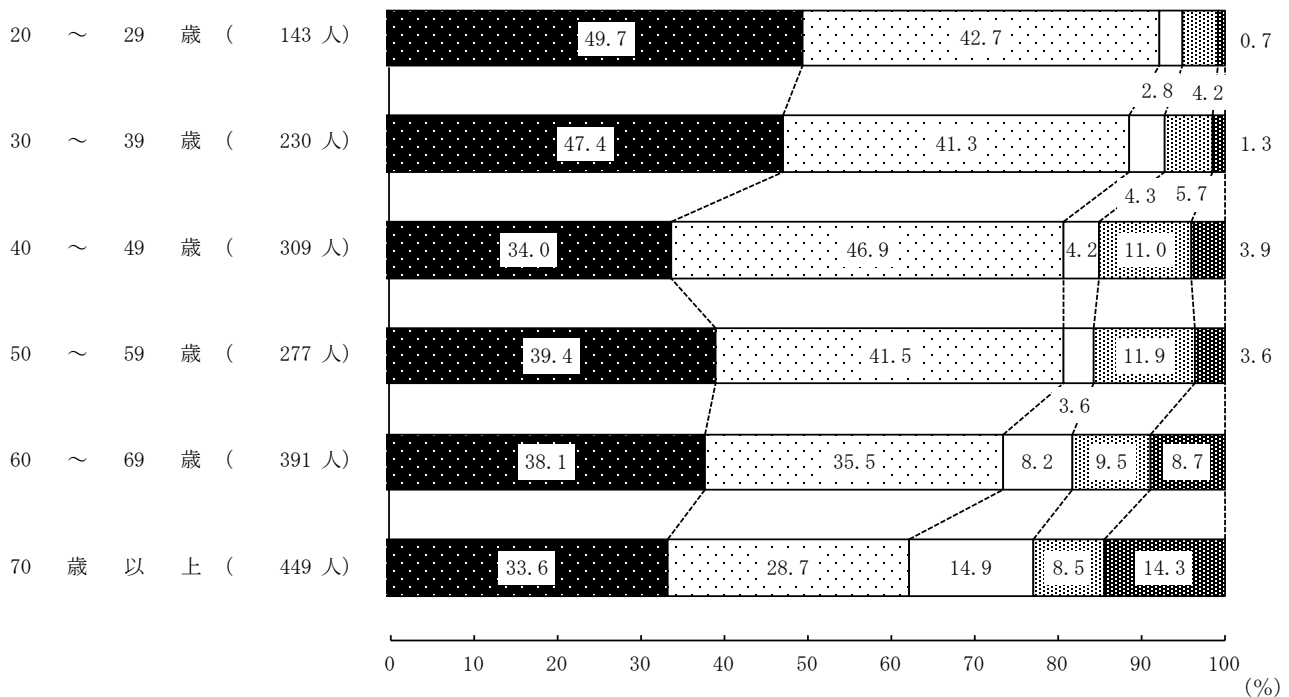
	平成 25 年 1 月	→	平成 26 年 11 月
・必要だと思う (小計)	77.1%		76.6%
・必要だと思う	38.0%		38.6%
・どちらかといえば必要だと思う	39.0%		38.0%
・必要ではないと思う (小計)	15.3%		15.8%
・どちらかといえば必要ではないと思う	8.1%		8.9%
・必要ではないと思う	7.2%		6.9%



[ 性 ]



[ 年齢 ]

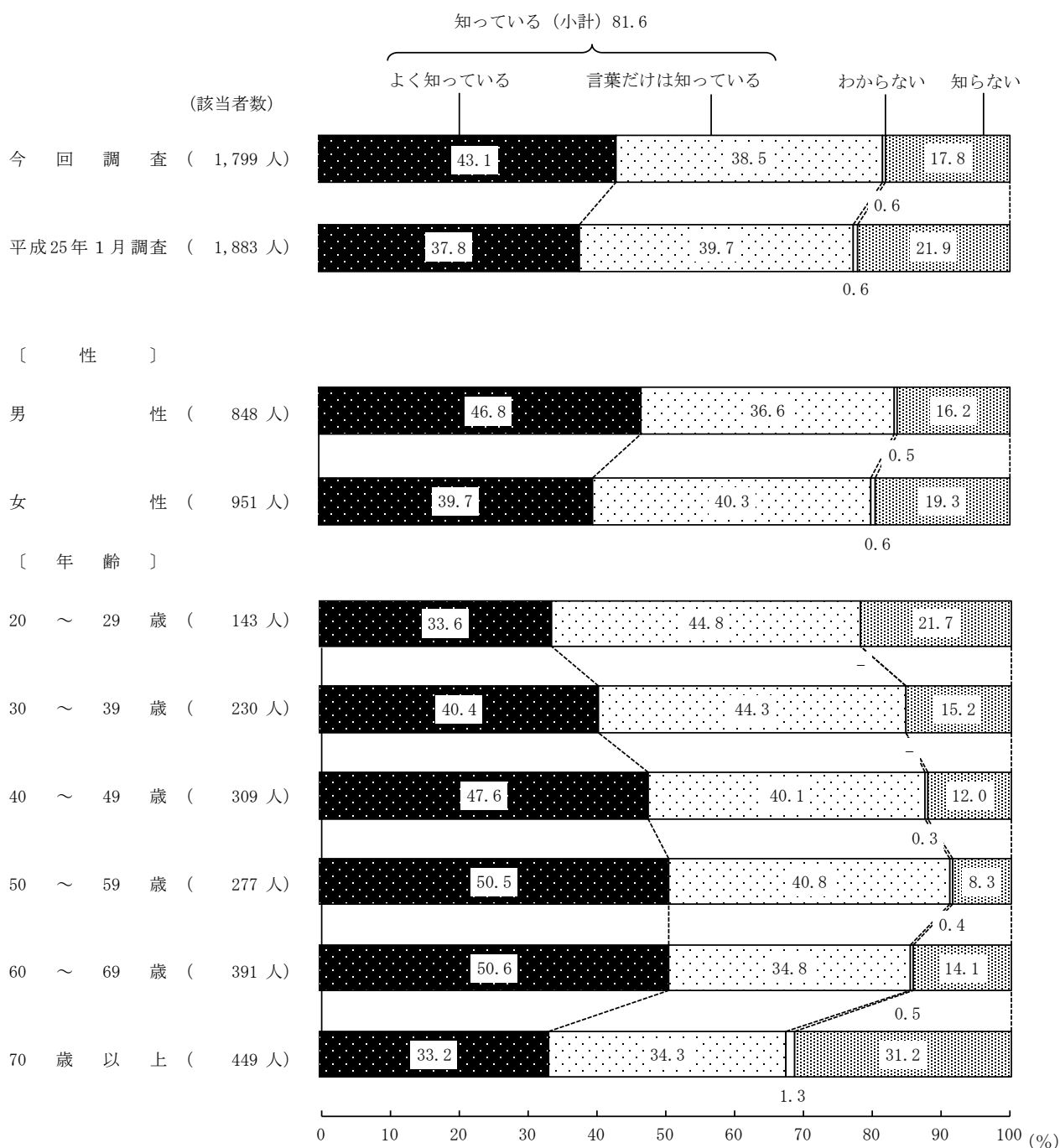


## 7 がんの臨床試験について

### (1) 臨床試験の認知度

問18 あなたは、臨床試験について知っていましたか。この中から1つだけお答えください。

	平成 25 年 1 月	平成 26 年 11 月
・知っている (小計)	77.5%	→ 81.6% (増)
・よく知っている	37.8%	→ 43.1% (増)
・言葉だけは知っている	39.7%	→ 38.5%
・知らない	21.9%	→ 17.8% (減)



(注) 平成25年1月調査では、提示した資料の内容が異なっている。

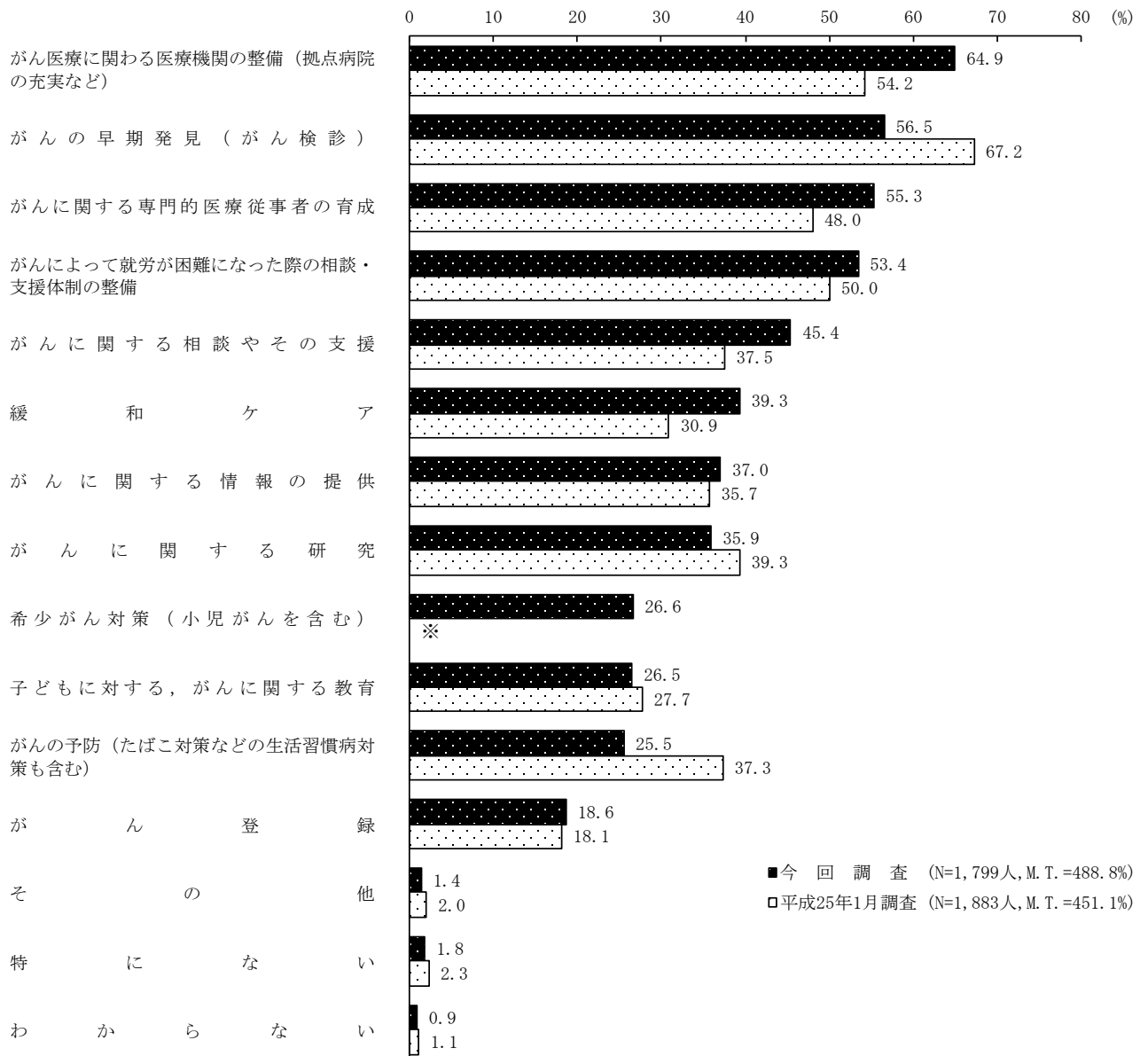
## 8 がん対策に関する政府への要望について

### (1) 政府に対する要望

問17 あなたは、がん対策について、政府としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

	(上位4項目)	
	平成25年1月	平成26年11月
・がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）	54.2%	→ 64.9% (増)
・がんの早期発見（がん検診）	67.2%	→ 56.5% (減)
・がんに関する専門的医療従事者の育成	48.0%	→ 55.3% (増)
・がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備	50.0%	→ 53.4% (増)

(複数回答)



※調査をしていない項目